

令和7年度 第1学期 始業式式辞

満開の桜が、皆さんの進級を祝ってくれています。いよいよ観音寺中学校の新しい1年が始まります。

2年生、3年生はそれぞれ学年が一つ上がりました。学年が一つ上がるということは、一つの節目を迎えたということです。

では節目という言葉の「節」とは何のことか。

皆さん、植物の「竹」を頭の中で思い出してみてください。今の時期はタケノコが旬を迎えていますから、皆さんのお家の食卓に出てくることもあるのではないのでしょうか。その地中に埋まるタケノコが地上に芽を出し、生長したのが竹ですが、竹は、上下の節と節の間が中空で、それが連なったおもしろい構造になっています。全部が節だと曲がらないし、全部が中空だとすぐに折れてしまいます。節のもつ堅さと中空のもつしなやかさのバランスがとれていることで、竹はそのしなやかな強さを保っています。よく台風で大木が折れたというニュースをみますが、強い風が吹いても竹はしなやかに曲がり、風をいなして元に戻るため、折れることはありません。

この竹のからだの構造を人生にあてはめて節目という言葉が使われます。私たちの普段の生活は竹でいえば中空の部分です。これに対して学年が上がるなどの生活が変化するときが節の部分です。普段の生活に流されるばかりだけでは、いつか心も身体も折れてしまいます。そこで竹と同じように、組織としても個人としても節目のもつ役割が大切になります。この節目のときに、観中生一人一人が自分自身のこれまでを振り返り、これからを展望する、そして、自分自身の今を見つめ直して行動を起こすことが、これからの人生を生きていく中で、強い風が吹いて嵐になったとしても、竹のように、強くしなやかに乗り越えていく力が身につくのだと思います。

また、通常の植物は茎の先端部分に成長点があり、先端部分が細胞分裂を繰り返すことで大きく伸びていきますが、竹は節に成長点を持っており、それが一定の間隔ごとにあるものだから、成長が驚くほど早いのです。伸びる時期には1日で約1mも伸びます。

学年が上がり、節目を迎えた皆さん、ぜひこの機に、自分を大きく伸ばしてほしいと考えています。

2年生は、新しい1年生が午後から入学してきますが、先輩として中学生とはかくあるべきという手本を行動で示してください。

3年生は、これからの1年間はすべて自分の進路に直結していることを自覚し、まあいいか、とか、ちょっとだけとかというような甘えはもう捨ててください。そして観中の顔として学校の内外を問わず、仲間と切磋琢磨しながら、何事にも前向きに取り組んでほしいと思います。

在校生の皆さん、皆さん一人一人の心の中には、昨年度の3年生をはじめ、これまで本校を卒業していった先輩たちから受け継いだ「観中魂」があります。それは「仲間と一緒に達成感を味わいたい、応援してくれる人たちの期待に応えたいとの思いで、自分や集団の目標の実現を目指して、日々の授業や学校行事、部活動等にみんなで本気になって取り組み、身に付けた力で結果を出し切ろうとする強い心」をいいます。

そして、わたしからも一つ、「Be the Player」という言葉を改めて贈ります。直訳すると「プレーヤーになれ」ということですが、例えば、一つの物事を始めるときに、その中心になって一生懸命取り組む人がいる一方で、それに参加せずに冷めた目で見ている人がいる。これを傍観者と言いますが、「Be the Player」とは、要するに傍観者になるなということであり、日々の授業や学校行事、部活動等にプレーヤーとして本気で取り組みということです。大人の中には社会の中で起こったことを、さも知っているかのようにああだこうだと批判する、薄っぺらい人がいますが、皆さんにはそういう人にはなあってほしくないのです。どうか、プレーヤーとして今、やりたいこと、やらなくてはならないこと、今しかできないことに全力で取り組み、貴重な中学時代に豊かな経験を積み上げ、これからの人生を生きていくための基盤をつくってほしいと考えています。

私たち教職員は、伴走して皆さんをサポートします。今の皆さんと同じように、観中の教職員一同、今やる気に満ちています。今日からの新たな1年間よろしくお願いします。

令和7年4月7日

観音寺市立観音寺中学校長 三好健浩